

ベタニヤホームだより



社会福祉法人 ベタニヤホーム
〒130-0022 東京都墨田区江東橋5-4-1
電話 03 (3631) 0 4 4 4
FAX 03 (6659) 6 6 7 2
発行責任者 網 春子

2022年夏号 第142号

令和4年度イースター礼拝 「愛しているか、 と主は言われた」

(ヨハネ福音書 第21章第15節〜19節)

日本福音ルーテル教会

牧師 松田 繁雄

(社会福祉法人ベタニヤホーム礼拝)



《ペトロは、イエスが三度も、「わたしを愛しているか」と言われたので、悲しくなった》今日のテキストの17節にはこう書かれています。それはさうでしょう。「わたしを愛しているか」「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」という会話が三度もくり返されるのですから、ペトロのみならず、誰でも自分の愛がそんなに信じられないのか、と悲しく感じてしまうでしょう。きょうの箇所を解き明かすかぎは、それなのに、何故、イエス様は、三度も「愛しているか」と聞かれたのか、という事でしょう。

一つには、私たちの考える「愛する」ということとイエス様の意図しておられる「愛する」ということが違うという事で

しよう。どこが違うかという点、ペトロがイエス様の事を愛するという意味は、イエス様の事が好きだという事でしょう、そして、何か具体的なことをするという訳ではないのです。だから、「愛するか」と聞かれた時に、そんな事は良く分かっているではないか、と思ってしまうわけで、「わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」というペトロの答え方にその思いが良く現れています。ところが、イエス様は「愛するか」と尋ね、「愛している」と答えるのに、かぶせるように、「私の羊を飼いなさい」と続けます。そして、きょうのテキストの最後では、《このように話してから、ペトロに、「わたしに従いなさい」と言われた》と書かれていますので、イエス様の感覚では、「愛する」事は「イエス様に従う」事で、具体的には、「私の羊を飼いなさい」というイエス様の言葉を守って、教会に集う人たちを守り導き、それこそイエス様の後継者としての仕事をするようにと期待されているのです。

実は、ここに至るまでに、ペトロの中で、ある特定期間の、ある心の変遷があったと考えられるのです。出発点は、最後の晩餐のあとの場面です。イエス様は、「あなたがたは皆わたしにまつまう。しかし、わたしは復活した後、あなたがたより先にガリラヤへ行く」と言われたのですが、「わたしはつまずきません」と答えたペトロに対して、「今夜、鶏が二度鳴く前に、三度わたしのことを知らないと言つたろう」と予言されます。そして、実際その通りにペトロは、捕らえられ拷問を受けるイエス様を目の当たりにして、思わず「知らない」と三度否定してしまうのです。ペトロは自分が嫌

なつた事でしょう。それだけは絶対するまいと思つていた事を自分がやってしまったからです。と同時に、そのような弱い自分をも包み込むイエス様の愛をも感じた事でしょう。それほどの方だ、きっとこのような逃れる事が不可能に見える危機からも、必ず逃れて元気な姿を見せてくれるだろう、そう考えたはずですが、ところが、そのイエス様は、そのまますすべなく、十字架の上で刑死を遂げてしまつた。ペトロは目の前が真っ暗になつた事でしょう。何とかなるだろうと、考えていたのは、逃げてしまつたペトロ以外の弟子たちも同じだったでしょう。わたしたちは、現在の信仰から、十字架と復活とをまとめて一つの出来事のように考え、イエス様がわたしたちを罪から救い出すためにさうしてくださったのだ、とだけを考えているのですが、当時の弟子たちの立場になつて考えれば、あのイエス様が死んでしまつた、ということが絶対的で、信じられない気持ちと徐々に浸透して

くる絶望感とでいけば、いだったのです。そういう弟子たちが、イエス様は復活された、という噂を聞いても、にわかに信じる気



になれなかった気持ちは良く分かります。その弟子たちの中で一番最初に立ち直ったのが、ペトロでした。ペトロは空の墓を見に行き、自分で確かめた後、復活の主イエスの顕現を目撃します。「確かに、主イエスは復活されたのだ」とペトロが証しを始めてから、状況が一変します。ペトロの言葉は、イエスご自身から霊を受けて、力強いものになっていました。そうして多くの者がペトロに聞き、信じるものとなっていきました。ペトロは「主のみ名によって語り、主のみ名によって活動する」ということを常に強調していきました。時には行きすぎと非難される事もあったでしょう。使徒言行録5章6節、10節にペトロの取り巻きの若者あるいは青年たちの事についての言及があります。「主のみ名によって」妥協のない主張を押し進めるペトロは、一部の若者たちからは絶大な人気を博したのでしょう。と同時に、同じ箇所11節に、「教会全体とこれを聞いた人は皆、非常に恐れ」と書かれているような反応を示す人も多かったのです。何が起こったかは別として、非常に人間的なくらみが行われ、その結果十二使徒の一人のゼバダイの子ヤコブがユダヤ当局によって処刑され、ペトロもつかまりエルサレムから追放されます。またエルサレム教会は、指導者として頑固なペトロより、柔軟で教養もあり、何よりも主の兄弟であるヤコブを選んだのです。

ペトロはガリラヤに帰りました。そしてその後、きょうこの物語にある出来事が起こるのですが、ここで、もう一度「愛する」ということの意味について考えてみましょう。ペトロは弟子として、自分こそがイエス様を愛していると思っていたのです。「わたしはつまずきません」と答えた時、他の誰が裏切っても、自分だけは裏切らない、それはそれだけ強い愛を自分は持っているからだ、とペトロは思っていたでしょう。しかし実際は、イエス様の言われた通りに、その夜のうちに三度もイエス様の事を知らないといってしまったのです。この事実が気がついた時、ペトロは打ちのめされ、突っ伏して泣き出したと書かれています。でも、マルコ福音書によれば、その泣き出す前に、ペトロは、イエス様が言われた

言葉を思い出した、ということです。イエス様は自分の弱さを知っておられたのだ、それを知りながら自分をなお愛していてくれたのだ、この思いで胸がいっぱいになり、ペトロは突っ伏して泣き出したのです。それは一見悔恨の涙に見えますが、イエスが自分を愛してくれていたということとを理屈抜きに思い知ったところから来た、なんとも複雑な涙だったのです。このとき、ペトロはイエスの愛を知り、自分がいかに愛を知らなかったかにも気付きました。ここで愛に目覚めたペトロが主イエスに従って、自分も人を愛するという歩みを始めた、というのであれば素直なのですが、実際は、その後起こった思いもよらぬイエスの死に打ちのめされ、動転してしまっただけで、すっかりその愛を忘れてしまっただけです。復活の主イエスにも会い、霊を受けて、力強く教会の指導者として、主イエスの名によって歩む事もしました。しかし、その間中、熱心ではあっても、愛する事を忘れたものとしてペトロは歩んだのです。無我夢中といえどもでもあるのですが、せっかく「聞きなさい」と与えられた自分のためのメッセージに耳を傾ける余裕を持たず、ただ自分で正しいと思う道をひたすら走ってしまったという年月でした。そして、そのペトロの足が止まる時が来ました。また打ちのめされて、人間不信に陥って、彼は故郷のガリラヤに仲間と共に戻ってきました。そして、そこで、三度復活の主イエスに出会ったのです。

イエス様は、三度「わたしを愛するか」とペトロに尋ねられました。ちょうどペトロが三度イエス様の事を知らないといったことに呼応するかのよう。そうして、その時に感じた、イエス様の愛と自分が愛していると思っていた感情がいかに違うことかという思いがよみがえってきたのです。イエス様は、いつでも、具体的に一人一人を心にかけて愛してくれていました。その事は、三度知らないと言ってしまう、その自分の弱さをあらかじめ知っていながら愛してくれたイエス様の愛を感じたあの時から、ペトロには分かっているなければならない事だったのです。しかし、いま改めてイエス様はペトロに

現れました。そうして、三度「愛しているか」とくり返し尋ねて、その答えを確認し、「私の羊を飼いなさい」と教えられたのです。最後に

「わたしを愛するか?」「ご存知の羊を飼いなさい」「わたしを愛するか?」「ご存知の羊を飼いなさい」「わたしを愛するか?」「ご存知の羊を飼いなさい」と三度くり返された復活の主イエスとの問答は、ペトロにこの心の大切さを思い出させてくれました。と同時に、そのイエスの愛に従って、自分も愛を実践していくという生き方は、「両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる」ような生きかただということにも気付かされたのです。イエス様もそうして生きてこられたのですから、この大きな気付きをペトロに与えて、イエス様は去っていかれました。イエス様に従い、イエス様が愛してくださったように、私たちも愛していく生き方をする、そこに復活の主のすべてのメッセージが込められていたからです。



法人創立100周年に向けて ～特別編～ 「新しい歌を主に向かって歌え」

母子生活支援施設ベタニヤホーム 施設長 伊丹 桂

ベタニヤホームの100年の歴史を詳らかにしようとするとき、多くの資料が喪失されていることに気がつきます。「本所ベタニヤ母子寮」が改築され、5階建ての建物となり様々な事業展開がなされていく昭和40年代から50年代にかけて、母子寮を中心に様々な研究や理論的実践がなされる中で、『ベタニヤホームのはたらき 社会福祉法人ベタニヤホーム60年略史』などの報告書がまとめられ、その史実が断片的ではあるものの記録されているのを参照していくことはまだ可能です。

100周年に向けて、法人の通史を紡ぐことができれば、法人の姿勢や実践の評価が可能となります。この評価を行わずして前には進めないと思われませんが、聖書には「新しい歌を主に向かって歌え」とされる箇所が少なくありません。では、我々福祉の実践者にとっての「新しい歌」とは何でしょう。

聖書における「新しい歌」の解釈は様々です。神への救いの驚きと感謝や感動を表現する歌。救いの完成を見つめながら歌う歌。多くは神により与えられる救いへの感謝の表現とされますが、私が注目するのは以下の二つの解釈です。曰く、「それまで歌ってきた歌とはまったく質の異なる歌」、「主に囁かれた者にしか歌えない歌」。現在、社会福祉は人々の暮らしにマッチした形で必要な支援を提供できない状況にあると言われています。現在の社会課題は戦後スキームでデザインされた制度では対応できず、社会保障と公的扶助の間のメニューが少ないという点で、一気に生活が転落する可能性さえあるような制度になっているとも言われます。

昭和40年代～50年代は高度経済成長に伴い、戦後の福祉ニーズが転換した時代であると言われます。今、再び転換の時代を迎えていると実践者は認識し、これまでのメニューとは全く違ったものを提供すべきなのです。と同時に、「ケア」の存在を活用し、支援者とクライアントという構造においてのみケアがなされるという陥穽に陥らないことが求められます。新しい歌の解釈はまさにそ

のことを言い得ているのではないのでしょうか。

さて、ベタニヤホームの先鞭をつけた先達であるエーネ・パウラスは昭和22年に日本に戻り、母子寮を再建します。昭和25年には「本所ベタニヤ母子寮」が、翌年には菊川保育園が開設認可されます。昭和27年には社会福祉法人ベタニヤホームが認可され、翌年には富士見保育園が開設されます。ほんの足掛け6年の間にこれだけのことをやってしまふことに驚きます。いったいどんなマジックを使ったのかと思われるほどの動きですが、先に挙げた『60年略史』では、こんなことが記されています。

「戦後戻ってこられたパウラスさんがG・H・Qを連れてきて、町内の主な人にわたりをつけた話を、この前町会長から聞いたわけですよ。それまでにあそこ土地は、地主さんは地域の人に分けて売ったんですって。それをパウラス先生が来て、どうしても私たちが使いたからよせと。そうでなかったら、G・H・Qで無料で没収するぞと、それで強引に買い戻して元の姿に戻して、地主は新たにベタニヤと賃貸借契約を結んだんです」(第2部証言 p.216 長畝すめる氏の発言)

戦後の混乱の中、必要だったのはコンプライアンスよりも、支援が必要な人にいかに支援を提供するかという意思だったのかもしれない。また、同じ文献にはこうもあります。

「日本の母子福祉はもう救貧事業じゃないと思うんですね。今までルーテル教会は、日本の社会福祉の先端をいっていたと思うんです。それはさっきの話に出ましたように教会全体が関わっていたからでしょう。ベタニヤホームも日本の母子福祉の先頭に立つものだ、そうしたら、今後のアイデアをですね、どこにおいたらいいのか、どこに重点を置いたらいいのか。こんど60周年の課題としてね、試行錯誤になるに違いないけれども、じっくり考えていかなきゃいかにないかなあとこう思っているんですよ」(第2部 証言 p.284 内海季秋氏の発言)

この二つの引用部分は100周年を迎える今、非常に重要な意味を持っていることに気が付かれた方もいらっしゃるでしょう。2020年に新しい建物となった母子生活支援施設ベタニヤホームですが、法人が所有する母子生活支援施設に隣接する敷地を全て利用させていたいただいております。これは現在の児童福祉施設運営基準に則った施設を建築するには必要なことでした。建替え計画には新しい建物で何をするか？ということを社会課題に合わせて明確にしていきましたが、新型コロナウイルス感染拡大はもとより、世界的なインフレーションにより、母子生活支援施設や保育所を経営するだけでなく、新たな課題に向けて事業を展開することが求められています。新しい取り組みとして食支援を展開してきましたが、このコロナ禍の状況下、地域に根差した食支援を展開する必要があると感じました。各種助成金の申請で冷凍庫だらけの施設になってしまった感がありますが、実際に食支援を展開する中で、地域に暮らすひとり親、母子家庭の生活困窮が可視化されたり、退所者支援の回数が増えました。新しいことを始めることで更に新しいことが求められてくるのです。母子家庭の困窮や8060問題、あるいはヤングケアラーなど、地域に根差した支援は既存の制度内では展開できません。施設利用者を含めた「地域で暮らす人」を視座に、地域を支える施設になることが求められています。新しいことを始めるには人だけではなく新しく土地や建物も必要です。都心に土地を探すのは建て替えよりも難易度が高いでしょう。試行錯誤しながらどこに重点を置けばいいのかは100周年の今も全く変わらないのです。そして100周年の組織だからこそ多くの先達の取り組みを参考にすることができるとは思います。

今年度、母子生活支援施設ベタニヤホームでは毎年度行っている施設内研修で、出自である熊本のカンパニーを訪問する計画を持っています。創始者がベタニヤホームを始めたのはなぜなのかを職員ひとり一人が考えを深めます。100年法人の職員であるという品格は、多くの先達を持つていた意思を同じように持ち、100年の間に積み上げた知識を理解し、そして隣人愛を礎とした実践を行うことを指し示すものだと思います。皆様のご支援やご理解を通じて、私たちベタニヤホーム職員が歌う「新しい歌」を一緒に歌っていただければ幸いです。

母子生活支援施設ベタニヤホーム

●里山へGO!!

5月28日(土)に、学童行事「里山へGO!!」を実施し、小学生の子どもたちと東京都八王子市にある高尾山に行ってきました。今年度初めての外出行事ということもあり、子どもも職員も、この日を心から楽しみにしていました。当日は天候にも恵まれ、絶好の登山日和でした。

初めて山道を歩く子どももいましたが、最後まで諦めずに、みんなで助け合って登る姿が見られました。散策しながら、たくさんの自然に触れ、豊かな緑やおいしい空気を満喫しました。散策後は、お楽しみのお弁当。お母さんが作ってくれたお弁当には、それぞれの好物がたくさん入っていて、みんなとても嬉しそうにお弁当の中身を教えてくださいました。



菊川保育園

●やきそば始めました●

「てっだ! やきそばを作ろう!」。茶色の毛糸を片手にそう思いついたAくん。毛糸を切って、プラスチックに入れて…そんな様子を見ていたBくんは、「ほくは、青のり作るね」と緑の画用紙を細かく切り始めました。そのうちに、「ほくはキャベツ作る」「人参も入ってるよね」「肉が足りない!」と次々に仲間が集まって美味しそうなやきそばの完成。皆で力を合わせて作ったやきそばが出来上がると「皆で作ったから皆で遊ぼう」とばら組のやきそば屋さんごっこがスタートしました。

「やきそばいりますか?」「ポテトのおまけもあります」と盛り上がって遊ぶ子どもたち。そのうち、本物も食べたくなってきて、給食さんをお願いをして、本当のやきそばを作ってもらおう事に。「リアルやきそば屋さんごっこ」の開催です。「やきそば一つください」「パイパイ使えますか」「あっ、チャージ忘れちゃった」と自分たちで作ったお金やカードを持ってきて、給食さんが焼いてくれたやきそばをお買い上げ。いい天気だったので、自分たちで作った段ボール机も持ち寄って、園庭で「いただきます」。「やっぱり本物は最高だわ」とご満悦の子どもたちでした。

友だちと楽しい思い出を共有したことで、ますます遊びも広がって、今では、やきそばだけに留まらず、「ピザ屋さん」「ラーメン屋さん」と様々なお店も登場。更にごっこあそびが盛り上がりを見せています。ちなみにお店の名前は「うーばーいーつ」(笑) もちろんリュックを背負ってデリバリーもしてくれます。ぜひ、注文しにきてくださいね♪



「やっぱり本物は最高!」



「やきそば麺どれだろう」

富士見保育園

●絆を深めるわくわくファミリーデー●



「絆を深めるわくわくファミリーデー」

今年度も新型コロナウイルス感染症の感染が続くなか新しい生活が始まりました。

3～5歳の異年齢児の2クラスでは異年齢との関わりを深めるために、クラス内で3歳、4歳、5歳1人ずつの3人組をつくり、一緒に遊んだり、掃除をしたり、助け合ったりしています。

わくわくファミリーデーでは毎月3人組の絆を深める活動をしており、6月はクラス対抗で運動会ごっこを行いました。

3人組のフラフープリレーでは、1つのフープに3人で入り協力しながら走りました。

綱引きでは「オーエスーオーエスー」と声を掛け合い、力一杯引っ張りまわした。

最後はリレーで、1つのバトンを繋いで最後まで走り抜きました。

自分が走る時はもちろん、お友達が走るときも大きな声で応援し、励まし合っ姿がみられました。

今回の運動会のごっこでは、クラスの団結力も深まり全員で力を合わせる機会や、一人ひとりが活躍できる場を持つことができました。

これからもこのような活動を通して絆を深め、共に友だちと喜びや楽しさを味わえる機会をつくっていききたいと思います。

こひつじ保育園

●ベランダでの発見●

西向きのベランダは日陰で、小さな子どもたちには外気浴にぴったりです。はじめは抱っこ、慣れてきたらベビーカーに乗って、自分で移動できるようになると柔らかいマットのスロープを使い、行きたい所に自由に入り出しています。電車や車、自転車や傘をさしている人、散歩をする犬を見たり、前の公園で遊ぶ大きいクラスの子もたちや保育者が手を振って名前を呼んでくれたり、空の雲や風、光が風景を彩り、ゆったりと世界を見せてくれる心地よいひと時です。

ある日ベランダの柵のネットをつかもうとしているAちゃんがいました。隣で座っていたBちゃんも同じところに手を伸ばします。

そこにはたんぼの綿毛がふわふわとついていたのです。「何だろうね？触ってみる？」と保育者が声をかけ手のひらの乗せてみると、風にふわりと浮かんで落ちました。二人はびっくりしてじっと見つめ、傍に落ちた綿毛に手を伸ばし触れました。ゆったりとした時間にしかおとされることのできない新しい経験でした。

『天の父が配慮してくださらないことはない。』

神さまからの恵みを受け取り、子どもたちの初めての出来事に寄り添えることに感謝して、日々の保育を大切に務めたいと思います。

子どものつぶやき

「だれがつくったの はなはなはなは」と讚美歌を歌って、自分の鼻を指さす子どもたち。その姿が可愛い1歳児です。

(1歳児 いちごぐみ)



法人本部からの報告

「新役員のご紹介」〈敬称略〉

本年3月に新たにご就任いただいた理事、及び6月にご就任いただいた監事をご紹介いたします。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

- ◆理事 森 宣道（新任／任期：令和4年3月23日～令和5年開催の定時評議員会終結の時）
- ◆監事 飯村 史恵（再任／任期：令和4年6月28日～令和6年開催の定時評議員会終結の時）

保健室から ～菊川保育園～

菊川保育園で看護師として働き始めて2ヵ月が過ぎました。子どもたちは、時々保育室にくる私を「このおばさん、時々くるけど何してるんだろう」と思っていたのではと思います。最近では、私が保育室に入ると「ここが痛くて～」「私、昨日転んでここに怪我したの～」と教えてくれるようになりました。少しずつ私がどんな人かわかってきてくれているんだなと感じます。



給食室から ～菊川保育園～

「『ぐりとぐらのカステラ』が食べたい！」と保育者と給食室に言いに来たAくん。

調理師が試作を重ね、絵本に出てくるようなカステラがついに完成。翌月のおやつに提供すると、Aくんは満面の笑みで「美味しい♡」と言ってくれました。



全クラスで大人気で、その日のおやつはおかわり分まで全て完食。保護者からは「レシピ下さい！」という声もありました。

改めて、子どもの声を大切に、保育士と連携をとって、給食を提供していきたいと思った出来事でした。

●ご寄附

「協力ありがとうございます」

〈令和4年4月～令和4年6月まで〉（敬称略）

- ◆母子生活支援施設「コストコホールセールジャパン 千葉ニュータウン倉庫店（BBQグリル、炭、マシユマロ、ジユース、イースターのお菓子：パランル、青山学院女子短期大学子ども学科（食器）、東京センチュリー株式会社（胡蝶蘭、森のライフ研究所（知育パスル）、Jorio Enterprises Pvt. Ltd 日本支店（マスク）、一般社団法人バンクフォースマイルズ（化粧品、マウスウォッシュ、石鹸、消臭剤、お花の種等）、非営利活動法人ソシオキユアアンドケアサポート（緊急室用衣類等）Tシャツ、スカート、サンダル、アルファ米（ヘカレーピラフ）、缶詰、公益財団法人資生堂社会福祉事業団（チョコレート）、墨田区更生保護女性会（スティックカフェオレ）、岩瀬和子（スティックミルク）、鈴木一郎（エレキギター）、匿名（お米）

- ◆菊川保育園 在園児保護者（玩具）、在園児保護者（靴）、在園児保護者（Tシャツ）、在園児祖父（段ボール椅子：ペーパー）、卒園児保護者（リボン・包装紙）、平岡敏子（金魚装飾）、富樫栄子（折り紙装飾）、増地良枝（紙袋）
- ◆富士見保育園 正林尚子（雑巾、タオルなど）

- ◆こひつじ保育園 卒園児保護者（水草約50本、地域の方（朝顔1鉢）、地域の方（朝顔の種約100個）、在園児保護者（折り紙30枚）、卒園児保護者（小児用マスク4箱）、吉川智美（卒園児保護者）（LaQ1箱・LaQの作り方の本7冊）

- ◆法人本部 伊藤陽子（金5万円）、日本福音ルーテル三鷹教会（金1万円）、岡本英雄（金3万円）

●地域公益活動（パントリー）協力団体

- 一般社団法人全国食支援活動協力会（食支援）、認定特定非営利活動法人セカンドハーベスト：ジャパン（食品他）、認定特定非営利活動法人全国こども食堂支援センター：むすびえ（食支援）、全国農業協同組合連合会（牛乳・乳製品）

●ボランティア

- ◆菊川保育園 大田和子（人形修繕）

編集後記

短い梅雨が明け、暑い夏がやってきました。新型コロナウイルスが落ち着いてきたと思っただけ、第七波が訪れ、感染拡大の猛威を振るっています。今、この時期に不安を抱き、沢山の苦しんでいる方がいますが、私たちは神様の御手の中にいます。

どんな困難も受けとめて、平和な日が来ることを信じて過ごしていきたいですね。